



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第45号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「死人」 エレミヤ
- ◎ 聖書の中の人々：「ヨセフの兄弟たち」
- ◎ イエスは語られる「心配するのはやめなさい」
- ◎ キリストを信じた体験談「排水溝に落ちた歯ブラシ」 by S
- ◎ 聖書の教えのエッセンス

<聖書からのメッセージ >

「死人」 by エレミヤ

本日は死人という題でメッセージしたいと思います。以下がテキストです。

マタイ 8:21 また、別のひとりの弟子がイエスにこう言った。「主よ。まず行って、私の父を葬ることを許してください。」

8:22 ところが、イエスは彼に言われた。「わたしについて来なさい。死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。」

ここには、葬りのことが書かれているので、葬式やら埋葬に関する話題であることがわかります。話に出てくるお父さんは、もう肉体が死亡しており、埋葬が必要なことがわかります。このこと、肉体が死んだ死人を葬ることは我々の常識内のことです。しかし、ひとつ我々には思いがけないことばをイエスは発しています。「死人たちに死人を葬らせろ」すなわち、葬式に連なったり、死人を葬る世

話をする人々も神の目の前には、聖書的な意味合いでは、実は「死人」であるとイエスは語られているのです。

一体これはどのような意味合いのことばなのでしょう？考えてみたいと思うのです。

<アダム、エバの時以来全ての人は死んでいる>

聖書の視点、神の視点でいう「死人」ということを考えるには、以下の創世記の記事を見る必要があります。

創世記2:16 神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

「死人」 by エレミヤ

この時、神は最初の人間であるアダムに対して「善悪の知識の木」の実を食べるとき、必ず「死ぬ」ことを警告したのです。そしてその後どのようなことが起きたかという、アダム、そしてその妻であるエバは蛇にだまされ、神の禁じた実を食べてしまったことが聖書には記されています。

そしてその結果、アダムもエバもその肉体が死ぬようになりました。聖書によるなら、神はもともと人が死ぬようには創造しなかった、すなわち、本来は人の肉体は、死ぬようにも老いるようにも作られていなかったのですが、神の戒めを破った結果、異常な状況、すなわち、死をアダム、エバは経験するようになったのです。とはいっても、アダム、エバは禁じられた実を食べた時に、毒リンゴを食べたように、即死したわけではありません。しかし、神がいう「必ず死ぬ」ということばは正確に成就し、彼らの肉体は年とともに確実に老化し、死に向かい、最後には生の限界を迎え、もうそれ以上生きることができず、肉体の死を迎えたのです。このこと、我々が老いて、死ぬということは今の私たちにとっては常識であり、現実であり、当たり前に見えるのですが、聖書が正しいのなら、死ぬことは通常状態ではありません。神は当初人が死なないように創造したのであり、人が老いる、死ぬことは本来ありえるべきでない異常状態なのです。人の肉体は若いときは元気ですが、しかし、それもつかの間であり、年とともに死は確実に体全体に及んでいき、いずれ歩く足も弱まり、手の持つ力も弱まり、記憶力も弱まり、体のどの部分にも確実に死が支配し、占領するようになるのです。

さて、私たちが知るべきことがあります。それは、死は人の全ての部分に及ぶ、ということです。単に人の肉体だけでなく、私たちの内側の霊的な目、耳、判断力、道徳心、良心、あらゆる部分が年とともに確実に死んでいく、ということを理解すべきなのです。

私たちの良心も道徳心も年とともに確実に弱っていき、衰弱していき、死に向かいます。

それで、子供のときは純粹だった人も大人になるとともに嘘を平気で言ったり、詐欺行為を働く人になったりするのは、私たちの霊的な目、耳も年とともに確実に死んでいきます。それで、以前は見えていた永遠や神に関する事柄も年とともに見えなくなったり、悟れなくなったりするのは、

<キリストに命がある>

さて、死ということばと反対のことばは「命」ということばです。キリストはこの我々の死に関連してこのように語っています。

ヨハネ 11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

ここでイエスはそのように、死に瀕しており、年とともに死んでいく私たちに對して、「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」と語るので、このことばの意味合いは2種類あります。ひとつはキリストを信じるものは、たとえ、肉体が死んだとしてもその肉体は後の日、終わりの日によみがえり、復活の体に変えられるということです。他の人々のように死後地獄に入ることなどないという意味合いです。そしてもうひとつの意味合いがあります。それは、このようにアダム以来、死を経験しており、死に向かっている私たちの内側、すなわち、私たちの良心、道徳心、霊の目、耳などは、キリストを信じる時、生き返るという意味合いです。パウロはこのことを表現してこのように語りました。

2コリント 4:16 たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

ここでパウロは外なる人すなわち、私たちの肉体は年とともに衰え、死に向かうことを認めています。しかし、それとともに、内なる人すなわち、私たちの内側の心や、良心、

「死人」 by エレミヤ

判断力、霊的耳、目は日々新たに命を得、強められていくことを語るのです。キリストはこのこと、キリストを信じるものが死から命に移る、その内側にいのちを持つことを表現して以下の様に述べています。

ヨハネ3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。

ここに書かれているように、神の御子であるキリストを信じるものは、その内側に永遠の命をもつのです、そのいのちのゆえに死に瀕していた私たちの内側は生き返り、死からいのちに移るのです。

このように私が書いていることは、何か自分たちの都合のよい理論を繰り返しているように思えるかもしれませんが、しかし、このこと、キリストを信じたとき、私たちの内側が死からいのちに移るとは、単なる理論でなく、クリスチャンの間では普通の経験です。

自分のことをいうのは恐縮ですが、私自身もキリストを始めて信じた高校生のとき、内側が生き返るような経験をしました。キリストを信じたときから、私の内側の霊の目も耳も見えたり、聞こえたりするようになりました。それで、何が自分の人生でもっとも大事なことなのか、ということがわかるようになったのです。それで、自分の人生観が一変してしまいました。以前価値があると思っていたこの世の名声やら、成功やら、お金などが真の目が見えるようになった時、もう価値あるものには見えなくなってしまったのです。むしろ目に見えない神の存在や、その教えが大事であることがわかるようになりました。結果、私は今ではこのように聖書にかかわる奉仕を行なっています。

また道徳的にも敏感になり、今まで悪いと思わなかったことでも正しくないことがあることを悟れるようになりました。それをただ

せるようになりました。異常だった感覚が正常になったのです。これは、私だけでなく、キリストを信じるようになったクリスチャンは一樣に同じ経験を語ります。ですので、聖書がいう「御子を信じる者は永遠のいのちを持つ」ということは理想でも、理論でもなく、現実であることをご理解いただければ、と思います。

ある牧師さんは過去ヤクザとして人生を送り、前科何犯もの罪を犯してきたということです。覚せい剤の売買もしていたということです。そして、彼は刑務所の中でキリストを信じました。その結果、彼の死んでいた良心や、正しい心感覚が生きてきました。かつては彼の良心も道徳も死んでいて、人を傷つけてもあまり心の痛みを感じなかったのでしょう。でも、今、彼の良心はキリストにあって、よみがえり生き返りました。それで、彼は今はキリストの教えを伝えるために人生をささげ、教会の牧師として奉仕をしています。また、刑務所から出所後住むところのない人を助けたり、また、刑務所にいる人々がキリストを見出せるように、手紙の文通を行なっていると聞きました。すばらしい奉仕の人生です。失礼な表現で恐縮ですが、かつては、ヤクザとして人や世の中の害になる人生を送っていた人が今では人々を大いに助ける働きをしているのです。彼の肉体は変わらないにしても上記みことば「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」とのことばは、彼の上に成就し、死んだような歩みをしていた人の内側が見事に生き返り、結果生きた歩み、人を助けたり、生かしたりする歩みに入っているのです。確かにキリストを信じるものにいのちが与えられる、ということは事実であることを知ってください。—以上—



アダムとイヴ

聖書の中の人々「ヨセフの兄弟たち」

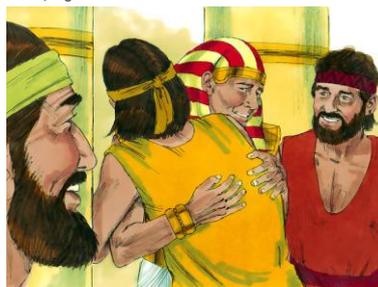
ヨセフは信仰の祖アブラハムの孫ヤコブ(イスラエル)の息子で苦難の後エジプト宰相になった人です。このヨセフの父ヤコブには、伯父ラバンの娘レアとその妹ラケル、レアの女奴隷ジルパ、ラケルの女奴隷ビルハの4人の妻がいました。レアとの間に生まれたのは、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンの6人の息子と、ディナという娘です。ラケルの女奴隷ビルハの息子はダン、ナフタリの2人、レアの女奴隷ジルパとの息子は、ガド、アシエル、イッサカル、ゼブルン、ヨセフ、ベニヤミンとなります。11男のヨセフは誰よりも父ヤコブに愛されていたため、異母兄達の妬みにより、エジプトに奴隷として売られます。しかし神様の不思議な計画によりエジプトの宰相となります。

創世記はこのヨセフの兄弟たちについても記しています。長男ルベンは、兄弟たちがヨセフを妬み殺そうとするのと止め、ヨセフを助け出そうとした人でした。しかし、父ヤコブの妻ビルハと関係を持って長子の権利を失います。後に長子の権利は11男のヨセフのものとなります。次男シメオンと三男ラビは激しい性格でした。創世記34章では、彼らの妹ディナが、カナンの地の族長の息子シュケムに辱められた時、非常に怒りディナを妻にしたいと願うカナンの地の人々をだまし討ちし、男たちを皆殺しにしたことが記されています。四男ユダは、兄弟たちにヨセフを殺さず奴隷に売ることを進言します。創世記38章は彼について記されています。ユダは、エル、オナン、シェラという息子がおり、息子エルにはタマルという嫁がいました。エルが神の怒りにより死に、慣習により次男オナンにタマルと結婚させますが、同じくオナンも神の怒りにより死にます。ユダは3番目の息子シェラが死ぬことを恐れ、タマルと結婚さ

せずにタマルを実家に帰し放置します。タマルは、遊女に扮し、義父であるユダをだまし関係を持ち、双子の息子ペレツとゼラフを産みます。

そのほかの兄弟たちについても、創世記37:2で「ヨセフは十七歳の時、彼の兄たちと羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らや、ジルパの子らといっしょにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを父に告げた。」とあり問題がありました。

ヨセフの兄たちは彼を憎み、奴隷としてエジプトに売り、ヨセフは野獣に殺されたと偽ります。長い年月が経ち、濡れ衣で囚人にまでなったヨセフは、神の知恵により王の夢の解き明かしをし、エジプトの権力者になります。その後大飢饉で困窮した兄たちは、エジプトに食料を求め、宰相となったヨセフと対面します。弟ベニヤミンに会いたいヨセフは、自分に気が付かない兄たちにベニヤミンを連れてくるように命じ彼らを罠にかけ、試みます。そして、兄たちは悪行を悔い、ヨセフにひれ伏します。ヨセフは彼らを許し飢饉で苦境に至る父ヤコブと兄弟たちをエジプトに呼び寄せます。「エジプトの行ったヤコブの家族は皆で70人であった」(創世記46:27)とあります。たった70人であったイスラエルの一族は繁栄し、エジプトで増え広がっていきます。そしてヤコブの12人の息子はイスラエルの12部族の族長と呼ばれるようになります。レビの子孫はレビ族としてイスラエルの祭司として特別に用いられます。また、ユダの子孫がユダ族となり、後のイスラエルの偉大な王ダビデと、救い主イエスにつながるのです。



ヨセフの兄弟たち

イエスは語られる「心配するのはやめなさい」

マタイ 6 : 31 　そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って、心配するのはやめなさい。

例えば、飲む物も食べものもない、着るものもないという困難な状況だと不安と心配でいっぱいになってしまいます。しかしイエス様は、私たちの心配をやめなさいと言われていています。カウンセリングで、よく言われているポジティブ思考、前向き思考の方法があります。前向きな考え方がよい循環となり、物事が良くなることは確かにあります。イエス様もこれと同じにいなさいといわれているのでしょうか？イエス様が言われていることを見てみましょう。イエス様がマタイ 6 ; 31 で「そういうわけですから～心配するのはやめなさい」と言われます。「そういうわけ」とはどういうわけなのでしょう？

マタイ 6 ; 26 ~ 30

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

天の父である神様が、あらゆることに目をくばられ、慈しみと恵みを与えておられます。イエス様は、鳥や花を通して、父なる神様の慈しみと守りを信じなさいと言われていているのです。また「いくら心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか」とあります。別訳では、「自分の身長をいくらかでものぼすことができますか」です。人はいくら心配しても、命も身長も延ばすことはできません。いわゆる心理学のポジティブ思考とイエス様の言われていることは全く別物です。そして決定的に違う点があります。ポジティブ思考は自力で状況を変えていく方法です。自分の身長も伸ばせないような人間の力が、問題解決の源であるのは、なんとも心細いことです。

それとは違いイエス様が心配しなくてもいいと言われるのには、確実な根拠があります。それは聖書に記されている父なる神様の力です。イエス様は天の父なる神様の守りを保証されています。父なる神様はイザヤ 49 : 15 でこのように語られています。

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが、忘れてもこのわたしがあなたを忘れない。」

自分の力を頼るのか、イエス様の言われたことを信じ、神様に頼るのかで全く違った人生になります。主イエスを信じる人には父なる神の守りと力が与えられ、心配しない人生が送れるのです。



空の鳥を見なさい

キリストを信じた体験談 『排水溝に落ちた歯ブラシ』 by S

最近のことですが、キッチンの排水溝の掃除をしていたときに、ふとした拍子に歯ブラシを排水溝の下にいる排水パイプに落としてしまいました。さて、どうしよう？困ったな～と思いました。と、言うのはパイプの口は狭く、大人の手が入る余地が無いので、どうしたらよいものか？と少し考えました。しかも深さも結構あるので、うーん・・・と悩みました。その時とっさにいつものように神さまにお祈りしました。「何か良い方法を教えてください」と。

その時、まず菜箸が思い浮かんだので、それでトライしてみました。途中一度だけ何とかつかんだのですが、すぐにスルッと歯ブラシは元の場所に落ちてしまいました。それから何分かチャレンジしてみたのですが、一向に取れる気配が無かったので、再度「今度は何を使ったらいいでしょうか？」と神さまに聞いてみました。あまり短いものだ、失敗したときに落としてしまうので、なるべく長いものを使いたいと思い、そのことも神さまに話してみました。そうするうちに、今度はフォークが示されました。でもその時に、「スプーンならまだしも、フォークでは無理だろう・・・」とそんな思いが心によぎりました。でも、せっかく神さまが示してくださったので、半信半疑でトライしてみると・・・フォークの先の部分が歯ブラシの柄の部分にかかり、思いのほかあっさり引き上げることができました。その瞬間、何度も「神さま、すごいわ。本当にありがとうございます。感謝します。このことも神さまのわざです！神さまのこと、イエスさまのことを、

ほめたたえます！」と叫んでしまいました。無事、歯ブラシが手元に戻ってきて非常に感謝なのですが、その後あるクリスチャンの言われたことばを思い出しました。もう8年位前のことですが、「なんでもね、たとえどんなに小さなことでもね、何かあったら神さまに祈ってみるのが一番！」ということをおっしゃっていました。

また、別のあるクリスチャンはこのように言っていました。その人は外国から来た伝道者の方だったのですが、ノンクリスチャンに神さまを伝える機会があった時に、「神さまはね、イエスさまはね、いつでも僕たちと一緒にいたいんだよ。だから何でもイエスさまにお話してごらん。」と。このことばを聞いたのは私が洗礼を受けたばかりの時でしたので、それこそさらに大分前のことなのですが、しかし、このお二人の証言は事実だなあ、ということをお改めて気付かせていただいたように思いました。

人間的には、何もトラブルが起きないのが一番良いのかもしれませんが・・・でも、今回の歯ブラシの一件を通して、また、過去のクリスチャンのことばを思い出させていただいて、神さま（イエスさま）は本当に頼るに値するお方なんだなあということをお、神さまが私に語ってくださったように思いました。もしよろしければ、私のつたない話が何かの時にお役に立てたら幸いです。神さまに感謝します。

私たちは天国へ入れるでしょうか？

私たちは 死後天国へ入れるでしょうか？考えて見ましょう。

<全ての人の人生に2つの定まったことがあります>

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き(裁判)の座につくことです。裁判の結果、無罪の人は永遠の命を受け、有罪の人は火の池に投げ込まれます。以下の様に書かれています。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき(裁判)を受けることが定まっている

<神の戒めに従って裁かれる>

死後の裁きの基準は聖書に書かれている十戒です。すなわち、我々が以下の戒めを守っているかどうかで死後の行き先が決まります。具体的には神を拝する、偶像を作らない、神の名をむなしく唱えない、安息日を守る、父母を敬う、殺さない、偽証しない、盗まない、姦淫しない、むさぼらないとの10の戒めです。これらの戒めを全て完璧に守り、一度も破ったことのない人は無罪として、火の池の罰を受けることはありません。

<私たちは天国へ入れるのか？>

とはいっても、このような神の戒めを全て守ることは私たちには難しいことです。偽証しないすなわち一度も嘘をつかない人は珍しいでしょう。盗むなどといっても小さなことを含めるなら一度も盗んだことのない人も珍しいでしょう。したがって、残念ながら、私たちは神の前に出たとき、有罪の宣告を下される可能性が高いのです。

<罪のない羊が私たちの罪の代わりに死ぬ>

旧約の時代の人々も私たちと同じように、神の戒めを全ては守りきれない人々でした。彼らが犯した罪が許されるために、神はその罪の代価を支払うべく、羊や牛を犠牲としてささげることが命じています。捧げられた罪のない羊や牛が血を流し、命を失って人々の罪の犠牲となり、代価となったのです。その時、罪を犯した人々の罪は許され、彼らは永遠の命を受けました。

<キリストは神の子羊>

イエスキリストは十字架で死にました。そしてその死は聖書によれば、神の子羊として我々の罪の犠牲、代価を払った身代わりの死であることが書かれています。

ロマ4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

このキリストを受け入れ、信じる人は死後のさばきに会うことがなく、永遠の命を持つようになります。私たちがもし、神の戒めを守りきれず、罪があるとしてもキリストがその死によって代価を払ってくださったのです。それで、たとえ死後の裁判の座に出ても、無罪、借金を返済したものとして、有罪の宣告を受けないのです。ぜひこのキリストを知ってください。



子羊であるキリストの十字架の死

聖書に関する有名人のことは：.ロバート・ミルカン 元カリフォルニア技術協会 会長およびノーベル平和賞受賞者



Robert Andrews Millikan
(1868-1953)

“私は聖書の親しい知識は、教育を受けた人にとっては、欠かすことのできない資
質であると思っている

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午後 15:00－16:00

見本

場所:東京都、京王線府中駅 10 分 ルミエール(市民会館)

府中市府中町2-24 (tel:042-361-4111)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

教会への連絡:tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★ 教会のHPもあります。

毎週の礼拝や聖書のメッセージの動画もアップされています。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリ
ーブ&ミルトス <http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風